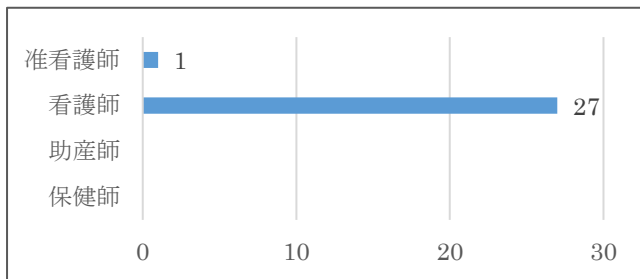


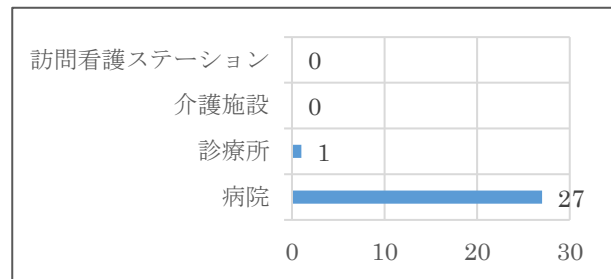
研修名	5. 外来における在宅療養支援能力向上のための研修	
開催日時	令和5年10月16日～令和6年月13日（e-ラーニング200分） 令和6年1月20日（土）時間13:30～16:00（演習）	
受講者数	38名（会員32名・非会員6名）内修了者36名	定員20名
ねらい	外来看護を取り巻く現状と課題のもと、地域における自施設の外来が果たす役割と、自らが外来で担うべき役割を認識するとともに、外来患者を支えるために必要な在宅療養支援に関する知識を習得できる。 習得した知識を在宅療養支援の強化に向けた取り組みに役立てる事が出来る	
講師	日本看護協会 常任理事 吉川久美子 他4名 演習講師 高知県立大学看護学部 特任教授 森下安子 ファシリテーター 地域包括ケア検討委員7名	
内容(キーワード)	外来看護 在宅療養支援 連携	

1. アンケート結果 回答数 28名 回収率 77.7%

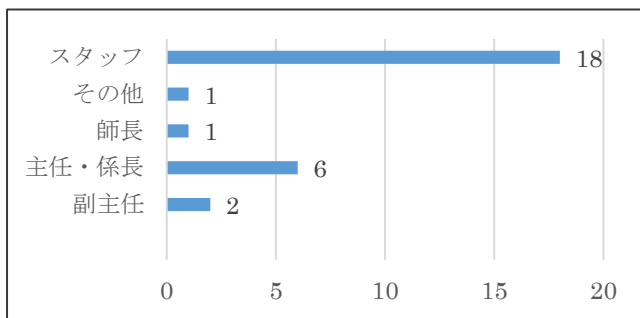
1) 職種



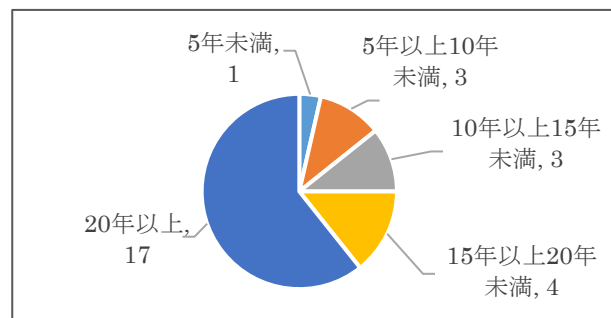
2) 所属施設



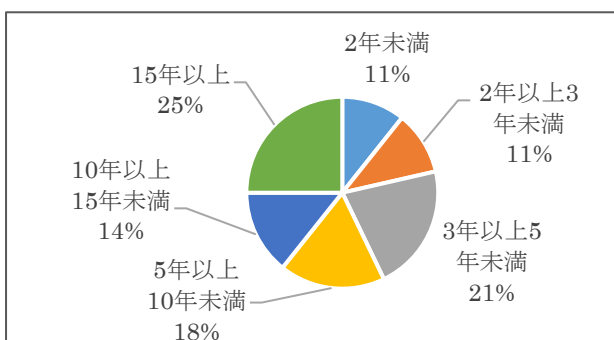
3) 職位



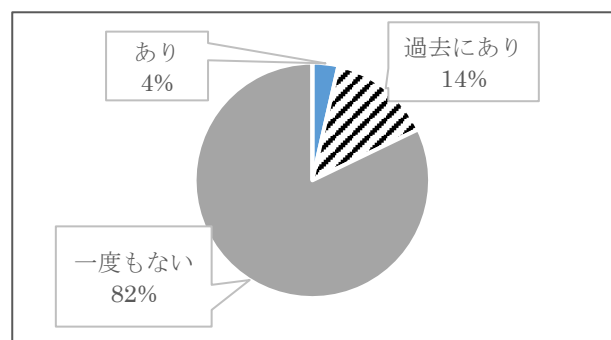
4) 臨床経験年数



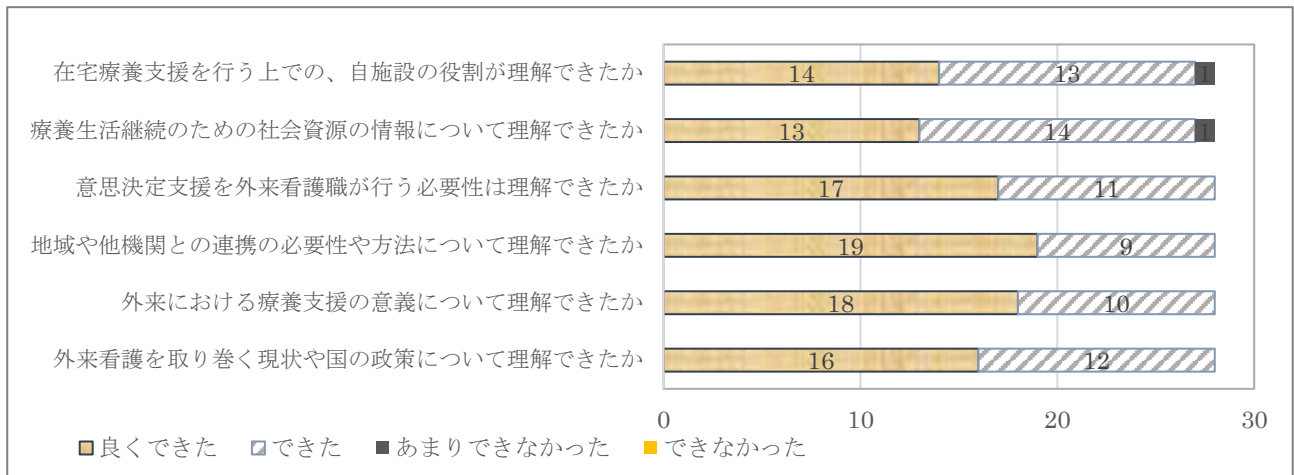
5) 外来経験年数



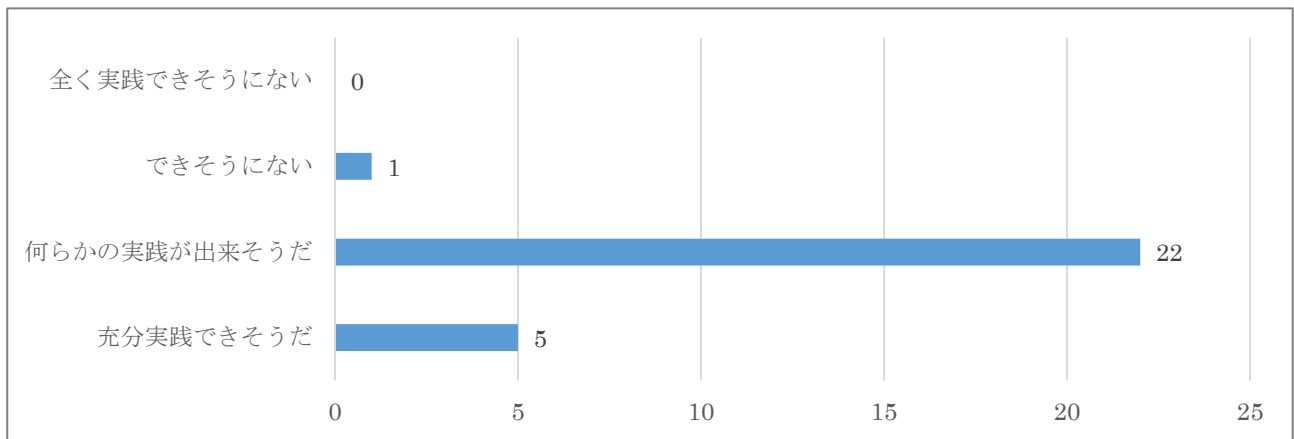
6) 過去1年間の外来看護の研修受講の有無



## 7) 研修内容の理解



## 8) 研修受講後の在宅療養支援の実践について



## 9) 今後実践しようと考えている内容について記載して下さい

- ・病棟から外来への連携、病棟との連携の強化(5)
- ・入院中からの関わり。
- ・外来受診時に退院後に困っていること等聞き取り、多職種と連携を図る。
- ・退院時カンファレンスに積極的に参加していきたい。現在も実践することになっているが、現実的に参加できていないこともある。病棟カンファレンスへ、参加できる体制にしたいと考えている。
- ・外来看護師も含めた退院前カンファレンスへの参加(7)
- ・退院カンファへの参加は難しいが、要注意・要支援患者の情報が共通シートでできるといいと思った。院内パスがあるといい。
- ・在宅療養支援が必要な患者を地域連携室に情報提供する。
- ・外来で療養支援ができるように患者家族に寄り添う。
- ・システム作りの強化が必要。
- ・継続看護の強化。
- ・ケアマネや訪看などと連携して外来窓口になれるようにシステムを構築し、地域で切れ目ない在宅療養支援ができるよう院内、地域の多職種との連携を積極的に行っていきたい。
- ・外来通院患者の服薬状況や家庭環境などを、体調の良い時から把握して記録に残しておく。

- ・かかりつけ病院や訪問看護ステーション、ケアマネージャーとの情報共有。
- ・退院前カンファレンスに参加し、退院後初受診時に介入し他職種へフィードバックする。
- ・意思決定支援
- ・スタッフに伝達講習する。

10) 演習に関するご意見・感想を記載して下さい

- ・グループディスカッションは、勉強になった。
- ・他施設の人の意見を聞いて良かった。
- ・今回の学びをこれからの業務にいかしていきたい。
- ・参加した皆さんの意見を聞くことで、それぞれに違った課題があり苦労している点も理解できた。それと同時に、大変さを共有し理解しあえる仲間がいることをうれしく感じた。有意義な時間を共有することができ感謝している。
- ・普段連携している施設のやり方や方針等情報共有が出来て勉強になった。
- ・他病院の方とのグループワークに参加した事で、今後外来看護師としてどのように支援していかなければいけないか学ぶ機会になった。
- ・いろいろな意見・考え・現場の実際など、学習になることばかりで面白かった。
- ・様々な医療機関から看護師が集まったの演習だったので、自施設以外ではどのような取り組みがされているか、もっと聴いてみたかった。
- ・楽しかった。
- ・グループワークの時間がもう少し欲しかった。
- ・在宅療養を支援するために外来看護師の役割が大きくなったと感じた。コロナ感染から面会機会も減り、退院後の患者と家族の思いの違いがあることや、地域を巻き込んでの支援等、多様な意見や提案を学ぶ良い機会となった。
- ・他施設の方々と意見交換する機会が得られて有意義であった。
- ・他施設の方と情報共有出来る機会があり他施設の事も知れてよかった。
- ・演習の中でいろいろな意見を聞くことができたのはもちろん、他施設での取り組みや外来および在宅医療の現状などの話が聞けたことはとても良かった。
- ・地域や病院によって、支援の内容の格差を感じたが、患者さんにその格差が少しでも小さくなるように、それぞれの施設で努力していく事は出来ると感じた。グループワークは最後まで楽しく参加出来た。
- ・外来での療養支援について、他の施設の方との意見交換を行うことで課題を再認識できた。今後の療養支援に活かしていきたい。
- ・外来看護師として在宅支援に関われることが沢山あることに気付かされた。組織として取り組まなくてはならない事はすぐには実現できないかもしれないが、日々の業務の中で出来ることも沢山あり、少しずつでも実践して行きたい。
- ・とても、意義のある研修だった。もっとこうした研修を開催してほしい。
- ・当部署の主任が外来看護について現在研究しているので、高知県の実情は知ってたが、最新の情報を知ることができ良かった。
- ・色々な施設の方と話ができて、大変刺激になった。またこのような機会があれば参加させていただきたい。
- ・他病院の看護師と情報交換でき良かった。(2)

- ・いろいろな病院での活動内容や、システムを聞くことができ、良い刺激になった。
- ・他施設の取り組みを知ることで、自施設の課題が、より客観視出来た。
- ・事例が日常の業務とかなり違うので難しかった。
- ・e-ラーニングの受講方法を簡単にしてほしい。
- ・ファシリテーターの声が小さく、真ん中にいたほうが声が聞きやすかったと思う。  
聞こえづらく、困った。集合研修だったのに残念だった。

## 2. ファシリテーターによる演習振り返り

ディスカッションの活発化について、導入の工夫が必要。

次年度は、アイスブレイキングを15分とり、事例検討に入る。

## 3. 担当者のコメント

病院勤務者が27名と多く、臨床経験年数は15年以上が21名で半数以上を占めたが、外来経験年数は、2年未満から15年以上までとばらつきがあった。

過去1年の外来看護に関する研修の受講の有無は、過去も含め有り18%、一度も無いが82%であった。外来勤務者の背景等から学ぶ機会が少ないと想定される。今回の学習方法は、受講者は全プログラムを期日通りに進めることができ、最終演習で、学びをより深める事が出来、効果的であったといえる。

また、全プログラム終了後28名中、27名が療養支援の実践ができそうと答えている。自由記載の内容からも、外来看護職に求められる役割の理解と、これからの在宅療養支援の実践への動機付けに効果があった。